資料３

令和８年８月千葉豪雨及び台風２５号による影響と対応について（９/３０会議時報告のまとめ）

１．鉄道

路線	千葉豪雨(8/13)	台風 25 号(9/21)	実施した対応･復旧状況	反省点･今後の課題、対策
北総線、京成スカイアクセス線（北総鉄道、京成電鉄）	①運転停止基準の時間雨量60㎜超過、運転停止 ②西白井駅構内でレール頭面から約20㎝の冠水が発生 ③千葉NT中央駅～印西牧の原駅間も冠水 （国道464号からの排水流入と、神崎川の水位上昇による排水不良が重なった。）	①時間雨量は60㎜未満で速度規制を実施 ②夕方に千葉NT中央駅～印西牧の原駅間の冠水が判明、運転停止 ③冠水は路盤から約95㎝、レール頭面から約35㎝、電気配線ボックスも浸水	①両日とも、水が引いた後に線路巡回、安全確認、試運転を実施 ②8月は24時過ぎ、9月は25時過ぎに運転再開 ③9月は駅間で停車したスカイライナーを千葉NT中央駅まで後退させ停車。京成バスが千葉NT中央駅、小室駅に計5台を配車し、成田空港への移動を支援	①開業以来経験のなかった規模の冠水で、従来の設計雨量を超える降雨と排水能力不足が課題 ②国･県･市、道路管理者と根本的な排水対策を協議する意向 ③応急対策として配線ボックスを約20㎝嵩上げする予定。砂利を積み増し、線路自体を高くする措置も検討
成田線我孫子支線（JR東日本）	①規制雨量に達して運転停止 ②木下駅停車の列車に約100人が乗車、終日運休の決定は22時30分 ③利用者が移動方法を判断しにくい状態が続き、迎え等で全員が帰宅したのは24時過ぎ	①17時30分頃に運転停止、18時に終日運休を決定 ②継続的な降雨で線路下の道床が流出、25日に復旧 ③24日の連休明けは、成田駅～我孫子駅間を直通できず、通勤等に影響	①9月は8月の反省を踏まえ、終日運休を早期に判断 ②9月24日は木下駅に湖北駅から職員2人を配置し、午前7時～8時頃に北総線方面へ向かうバス等を案内 ③9月25日朝は約3本が運休したものの、その後は通常運転に復帰 ④近年の予防的な竹の伐採により、両災害とも再開後の倒竹による運休･遅延は発生しなかった。	①8月の終日運休判断の遅れを反省点として認識 ②早期判断、利用者への案内、復旧までの代替移動手段の確保が課題 ③予防伐採の効果を確認

２．路線バス・コミュニティバス

路線	千葉豪雨(8/13)	台風 25 号(9/21)	実施した対応･復旧状況	反省点･今後の課題、対策
路線バス （京成バス千葉セントラル）	①17 時頃から道路冠水が多発 ②高花線は多々羅田公園～内野小学校付近を迂回 ③神崎線は車庫周辺の冠水により19～21 時に運休、帰庫が4時間遅れた車両もあった。 ④印旛学園線は冠水･通行止めにより終日区間運行 ⑤路上の走行不能車両の影響で、神崎線の迂回や北口循環線外回りの一部区間運休も発生	①神崎橋の通行止めにより、車庫以南の八千代緑が丘方面の便を上下計38便運休 ②印旛学園線は23時以降、印旛日本医大駅～学園台入口で折り返し、中野台～酒々井駅間を運休。運休･区間運休は合計50便	①運転士の無線報告で冠水箇所を把握し、迂回･運休を判断 ②運行可能区間では折り返し運行を行い、移動手段を確保 ③HP で早期に運休情報を発信 ④8月は翌日始発前に各ルートの安全確認を実施 ④9月は22日の始発から全線通常運行 ⑤乗客･乗務員の負傷、車両･車庫施設の被害はなかった。	①迂回ルート･折り返し方法の事前設定と乗務員への周知 ②気象情報に基づく計画運休･運行見合わせ基準の整理 ③HP 以外の情報提供手段の検討 ④道路管理者･警察との通行止め情報共有体制の構築
ふれあいバス （京成バス千葉セントラル）	①17時頃から道路冠水が多発 ②翌14日は、ふれあいバスの一部始発便が運休し、概ね8時頃に再開	影響はなし		
六合路線 （なの花交通バス）	①最終便まで運行して全路線バスを帰庫後、19時過ぎから雨が強まり、鹿島川が氾濫 ②鹿島橋付近で約1m、反対側の佐倉市内で約80㎝の冠水があり、車庫から車両を出せなくなった。 ③水が引くまで運行できず、17日まで影響	①午前中は運行し、午後から運休 ②路線バスと一部観光バスを歴博へ避難させたが、入口の崖崩れで搬出不能となった。 ③車庫の車両も浸水の影響で出せず、事務所1階は床上約50㎝浸水。電気設備･無線等が使用不能になった。	①連休明けから徐々に復旧し、運行を再開 ②車両･乗務員の被害はなかったが、会議時点では電話･FAX等が一部不通で、事務所設備の完全復旧には1～2か月を要する見込み ③X･HPで情報発信し、印西市、佐倉市に依頼してバス停に運休のお知らせを掲示	①車両を早期に避難させるだけでなく、2か所以上に分散し、少なくとも休日ダイヤに必要な台数を運行できる体制を検討 ②今後は自社でもバス停への掲示を行える体制を整えたい。

路線	千葉豪雨(8/13)	台風 25 号(9/21)	実施した対応・復旧状況	反省点・今後の課題、対策
順大線 (京成バス千葉イースト)	①中平橋付近の水害で運行不能となり、19時30分に全線運休を決定 ②全車両が深夜2～3時頃までに帰庫し、乗客・車両の被害はなかった。 ③印西市から依頼されたコスモスパレットの臨時輸送は、配車できず対応を断念	①鹿島川の氾濫で事務所の机上まで浸水し、車庫の給油設備も水没 ②38台を歴博、20数台を出先車庫へ分散避難したが、歴博の車両は搬出不能になった。 ③一時全便を停止。営業用車両1台が水没し、廃車予定の車両も浸水。人的被害はなし	①分散避難していた車両を活用し、午後から一部臨時ダイヤで運行。事務所が使えない中、電源設備を備えたバスでアルコールチェック等を実施し、安全確認・点呼のうえ運行 ②水が引くにつれ、使用可能な車両数に応じて順次復旧 ③2019年の被災後に受電・変電設備等の嵩上げを行っていたが、今回の浸水には対応しきれなかった。	①重要設備・物品を事務所2階へ移す必要性を認識 ②歴博以外の車両避難先の確保を希望 ③災害ごとに被害箇所が異なるため、危険箇所の調査が必要 ④警報・避難情報を踏まえた早期運休の判断基準について、専門家の助言を受けたい。
宗像路線 (大成交通)	①豪雨時に路線バスを運行途中で中止 ②バス・事務所には被害はなし	①師戸地区で畑からの泥水により一般車両が立ち往生し、通行不能となった。 ②林・竹林の倒木による通行止めも発生。	深夜の道路巡回で通行状況を確認し、路線バスの運行中止を判断	①冠水しやすい箇所の把握に加え、倒木・竹林、民家から道路上に張り出した枝への対策が課題 ②雨雪時に枝がバスの屋根へ接触する箇所もあり、市と相談して対策を検討したい。

３．タクシー

会社等	千葉豪雨(8/13)、台風 25 号(9/21)	実施した対応・復旧状況	反省点・今後の課題、対策
大成交通	安全な経路を確認・指示し、佐倉方面へ迂回して帰庫したものの、帰庫後にエンジン警告灯が点灯し、1台が使用不能となった。	安全な帰庫経路を指示	
都市交通	1台が水没・全損廃車		
船尾タクシー	通常営業、被害はなし	安全に運行するよう指示	
千葉県タクシー協会	①鉄道、バスが停止する中で、帰宅手段の最後の担い手として輸送に対応 ②8月に佐倉市で乗客が死亡する事故が発生 ③県内全域では約200台が水没	①両災害の翌日、鉄道等の運休に対応するため区域外運送を許可・制限解除 ②県内タクシー会社を集め、JAF、ウェザーニュース、運輸支局、トヨタによる安全運行の緊急講習会を9月18日に開催	①死亡事故の発生を重大な問題と認識。安全対策、乗務員との連絡・情報共有の強化が課題 ②無線に加えて配車アプリとの連携、駅での運行中止掲示等により、利用者へ速やかに周知する方針

４．課題の整理

項目	主な課題
①浸水・排水対策	線路・道路・車庫周辺の排水能力、電気設備・重要機器の浸水リスク
②車両避難と事業継続	車両の早期避難・分散配置、避難先の出入口・斜面災害リスク、災害時の運行体制
③安全を優先した運休判断	気象・道路情報の収集、計画運休や運行中止の判断基準、緊急時における現場の安全判断
④情報共有・利用者への周知	交通事業者・行政・道路管理者・警察等の情報共有、運休・通行状況や代替ルートの案内、駅・バス停等における情報提供
⑤広域的な代替交通の確保	近隣自治体のコミュニティバス等との接続、鉄道・バス・タクシーの連携、自治体の枠を越えた移動手段
⑥道路の早期復旧	倒木・竹林・張り出した枝による通行への影響、安全運行教育